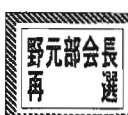


県産廃協会第1回収集運搬部会

産廃税導入を議論



産廃税等で質問する会員の鹿児島市のパレスイン鹿児島で、超過分の対応は統一されるのか、「重量計測方法が細かい部分まで整っていない」など具体的な質問が飛び交った。「見切り発車の導入では」との声が多くの中、県側は「導入開始日まで、関係者には広報紙等を通じてさらに内容の周知徹底を図っていく方針」と話した。

また会では、九州地域協議会収集運搬部会の報告があったほか、役員改選では野元部会長、田尻隆副部会長(南陽池運送)がいずれも再選された。



産廃税等で質問する会員の鹿児島市のパレスイン鹿児島で、超過分の対応は統一されるのか、「重量計測方法が細かい部分まで整っていない」など具体的な質問が飛び交った。

恒例の寄贈へ向け準備

ベンチ製作に精出す

宿指 支部青年部

県建築士会指宿支部青年部(西村浩志部会長)は13日、毎年恒例の手作ベンチの寄贈へ向けたベンチ製作を行った。さまざまな活動を通じて地域住民とのコミュニケーションを図ることで、同部を広く認知してもらうことと、会員の育成・強化及び新規会員の確保等が目的。同青年部の事業計画の柱として平成15年から開始。今まで指宿駅をはじめ、指宿郡額庭町の養護老人施設「えい秀峰園」などへ寄贈され、多くの住民に利用されている。今回も、指宿市の成川バイパス沿いにある興南建設の木材加工場に、地元で間伐された約2材



熱心にベンチ作業に取り組む会員の宿指宿市の興南建設木材加工場で

の一本杉を持ち込んで製作が行われた。当日、現地に集合した会員らは準備された杉材と、事前に準備された図面を確認した後、早速製作に取りかかった。寒さが厳しい中、会員らは持ち寄った工具を持って手際よく作業を進め、夕方には会員の善意の気持ちで込められた真新しい2脚のベンチが完成した。

作業終了後、夜には指宿市内の飲食店で参加した会員らが集まって懇親会が行われた。宴の席では、ベンチ製作工程につ

いてや、これからの部の活動の在り方などについて語り合い、杯を酌み交わしながら互いに作業の労をねぎらった。

なお、今回製作されたベンチは、2月末にも指宿郡山川町と鹿児島市喜入町へ寄贈される予定となっている。

川辺次世会 川辺中でボランティア

約500m²の菜園整備

川辺次世会(桑畑昭三会長)は11日、川辺郡川辺町田部の町立川辺中学校のグラウンド内に学校菜園を作るための整備をボランティアで実施。同会がボランティアで実施することとなった。場所は、テニスコートの隣接地である仮設駐車場の約4分の1(約500m²)。作業には、会員各社より10トンプラ4台、クレーン車3台を投入。桑畑会長の指示を受けた会員らが、次々に黒土の

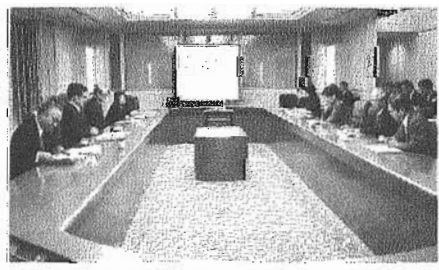


車と会員らの手作業で、搬送した土を丁寧に整地。夕方までにはきれいな菜園が完成した。

同校の鶴田教頭は「地元の建設業の方々が、さまざまな工夫を凝らしたカタチで地域貢献活動をしていただくことは、子供たちにもよい模範となるとおもいます。これからも明日の川辺のために頑張っていたきたい」と、寒風が吹く中で終日かけて作業をした同会のメンバーらに対し感謝の言葉を述べた。

かごしま材の家づくり 需要拡大へ意見交換

木材推進協



鹿児島市(旧吉田町)が整備を進めていた吉田多目的屋内運動場(通称・吉田ドーム)が完成し、12日、鹿児島市の現地で完成記念式典が開かれ、地域住民や行政関係者らが出席し、地域の交流拠点施設の完成を祝った。

式典に先立ち行われたオープニングセレモニーでは、森市長、上門議長と本城小学校5、6年生6人がくす玉開きを行い、館内が賑わった。

かごしま材の需要拡大に向け意見交換する委員ら。鹿児島市の県庁で

ら岩切明美委員(かごしまデザイン協議会研修委員)が「価値観の変化に応じたPRの仕方を考え

地域の交流拠点に

鹿児島市(旧吉田町)が整備を進めていた吉田多目的屋内運動場(通称・吉田ドーム)が完成し、12日、鹿児島市の現地で完成記念式典が開かれ、地域住民や行政関係者らが出席し、地域の交流拠点施設の完成を祝った。

式典に先立ち行われたオープニングセレモニーでは、森市長、上門議長と本城小学校5、6年生6人がくす玉開きを行い、館内が賑わった。

技能GP本県選手団 21日に激励会

第23回技能グランプリに出場する本県選手団の激励会は21日午後3時30分から、鹿児島市の県庁で行われる。

今回の技能グランプリは、3月11日から4日間の日程で千葉市幕張メッセなどで開催。本県からは、畳製作に原口隆行氏(南原口畳店)、和裁に高原美香氏(南高桑和裁技術センター)、フラワー装飾に迫草氏(花曜日)の3人が出場する。

畳の魅力をもっとPR

川野 積さん



昭和43年、三島村(黒島)の学校を卒業後、入社して今年で37年目。現在は、野呂勝社長が営業を担当し、私が畳の表替えや新畳の製作を手掛けています。



は、生活環境の変化に伴い、住宅の洋風化が進み、畳離れが進みつつあるということです。

畳は、イ草の香りで社会生活のストレスを解きほぐすだけでなく、夏はひんやり、冬は暖かい快適な環境を創り出し、室内の空気を浄化する。数々の効能があります。われわれ日本人にとって、やはり「癒しの空間(和室)」は欠かせないと思っています。今後も、畳の魅力をもっとユーザーにPRしていきたいです。(南野呂畳店)

手袋で便利な 動振替で

鹿児島建設新聞 227-3000